

令和元年度 事業報告

〔Ⅰ〕 2019年度事業の方針

本会は、一人ひとりの命の食の営みに寄り添う豊かな人間性と確かな専門技能を身につけ、郷土を愛しその復興に献身する管理栄養士・栄養士が集い、連帯の力で、食・栄養科学振興事業、食・栄養改善人材育成事業、食生活自律支援事業、食環境整備事業の四つの柱で、公益目的事業を推し進める団体である。

2019年度は、これまでの実績をもとに、これを一層発展させて、以下五項目を重点として各種公益目的事業に取り組むこととした。

- ・県及び市町村で行う「健康日本21（第二次）」施策等への主体的で積極的な参画
- ・東日本災害にかかる被災者支援、復興支援の活動の展開
- ・地域医療、在宅の医療・療養・介護における栄養管理・栄養ケアを担う人材の育成
- ・健康増進法に基づく情報の提供
- ・公益目的事業をとおしての組織強化・会員拡大

〔Ⅱ〕 2019年度事業の内容

I 食・栄養科学振興事業

公1 食と栄養の科学および実用技術を振興させる事業

本事業は、県民の食・栄養と健康に関する調査・研究や技術開発などに取り組むもので、これらにより、県の人口構成や疾病構造の動態に対応して県民の健康を護る食と栄養の総合的かつ実践的な科学及び技術の振興を図る。

本事業は大きく二つの柱からなり、一つ目の柱では、県民の健康と栄養の実態、栄養指導と食事療法に関する事例や症例などを対象とした調査及び資料の収集を行う。二つ目の柱では、栄養指導と食事療法に関する研究及び技術開発などを行う。また、これらには、食と栄養の科学の見地から、郷土の食文化を発展的に将来に伝えること及び県産の食材を生かした料理レシピや献立を創作することをも含む。

これらの事業は、個々の事業相互が密接に関連しつつ相乗的に効果を発揮する関係にあることから、一体として公1の事業を構成するものである。

1 栄養指導・食事療法・食育等に関する研究・技術開発事業

1-1 福島県栄養士会研究発表会

事業要旨 年に1回、職域を越えて管理栄養士・栄養士が一堂に会し、「栄養教育」「栄養管理」・「その他」などに関する調査研究を発表する。栄養改善学会委員会を立ち上げ、研究テーマの募集、研究発表内容の査読、指導を行っている研究・技術開発事業の一環である。

実施内容 2019年度福島県栄養士会研究発表会

「小中学校教職員の食育への意識と食に関する指導の現状」「栄養情報提供書の必

要性について」「働きやすい職場環境を目指して～嚙下食の見直しから始めた給食改革～」等合計12演題の発表があった。

実施日 2019年12月7日

会場 郡山市労働福祉会館 3階 大ホール

対象及び参加者数 管理栄養士・栄養士（会員・非会員を問わない、以下略）、関連職種、研究者及び県民。51名

財源 本会会費、受講料

II 食・栄養改善人材育成事業

公2 一人ひとりの命の食の営みに寄り添う豊かな人間性と確かな専門技術を身につけ、郷土を愛しその復興に献身する管理栄養士・栄養士を育成する事業

県民がより質の高い栄養指導及び食事療法をより身近に受けることができるように、高度の専門的スキルとともに一人ひとりの命の食の営みに寄り添う豊かな人間性と確かな専門技術を身につけ、郷土を愛しその復興に献身する管理栄養士・栄養士を輩出するために各種の研修等に取り組むものである。

事業は、公益社団法人 日本栄養士会が実施している生涯教育制度（基幹教育）を柱とし、その他の研修事業で構成している。

これらの事業は、何れも共通の目的を達成するための手段と位置づけられ、かつ、個々の事業相互が密接に関連しつつ相乗的に効果を発揮する関係にあることから、一体として公2の事業を構成するものである。

1 生涯教育研修の運営事業

生涯教育制度は、すべての管理栄養士・栄養士が専門職業人としての強靱な基礎体力を身につけることを目的として実施している。

公益社団法人 日本栄養士会の生涯教育制度に基づいた基幹教育（基本研修と実務研修）及びその他の研修事業を企画、運営している。

主たる対象は管理栄養士・栄養士であるが、関連職種、研究者及び一般市民にも参加の機会を開いている。

1-1 生涯教育研修事業

公益社団法人 日本栄養士会の生涯教育制度に基づいた基幹教育（基本研修と実務研修）を企画、運営している。公益社団法人 日本栄養士会の生涯教育制度は、各職域の初任者、中堅の実務者、管理者の到達目標（コンピテンシー）を明確にして、専門知識の継続的な自己研鑽を目指すものである。基本研修では管理栄養士・栄養士としてのミニマムスタンダードを身につけ、実務研修では専門とする分野に特化される知識と技術を習得する。

1-1-1 生涯教育研修（基本研修及び実務研修：県で実施）

（1）生涯教育研修（県）

実施内容 3日間、9単位で構成した。研修内容は、「高齢者の健康・身体機能と栄養について」「栄養ケアプロセスについて」「食事摂取基準について」などであった。

対象及び参加者数 主たる対象は管理栄養士・栄養士。ほかに関連職種及び県民。428名

財 源 本会会費、受講料

（2）総会時研修会

実施内容 講演 「我が国の食生活の現状と食育の推進について」

講師 厚生労働省医薬・生活衛生局食品基準審査課新開発食品保健対策室
(前農林水産省消費・安全局消費者行政・食育課食育計画班食育調査係
係長) 主査 斎藤 雅文氏

実施日 2019年6月29日(総会後)

会場 郡山市労働福祉会館 3階 大ホール

対象及び参加者数 管理栄養士・栄養士。435名(委任状を含む)

財 源 本会会費

1-1-2 生涯教育研修（基本研修及び実務研修：支部で実施）

（1）生涯教育研修（県北支部）

実施内容 研修「栄養指導時に必要な献立と調理(栄養介入)・嚥下食実践セミナー」について
講師 ニュートリー株式会社営業部北部エリア 管理栄養士 中野 登美子氏

実施日 2019年7月6日

会場 福島市

対象及び参加者数 主たる対象は管理栄養士・栄養士。他に、関連職種及び県民。21名

財 源 本会会費、受講料

（2）生涯教育研修（県南）

実施内容 研修「栄養指導時に必要な献立と調理(栄養介入)・嚥下食実践セミナー」について
講 師 ニュートリー株式会社営業部北部エリア 管理栄養士 中野 登美子氏

実施日 2019年8月10日

会場 郡山市立中央公民館

対象及び参加者数 主たる対象は管理栄養士・栄養士。他に、関連職種及び県民。18名

財 源 本会会費、受講料

（3）生涯教育研修（会津）

実施内容 研修「栄養指導時に必要な献立と調理(栄養介入)・嚥下食実践セミナー」について
講 師 ニュートリー株式会社営業部北部エリア 管理栄養士 宮田 愛美氏

会場 会津大学短期大学部 調理室

実施日 2019年8月31日

対象及び参加者数 主たる対象は管理栄養士・栄養士。他に、関連職種及び県民。17名

財 源 本会会費、受講料

(4) 生涯教育研修（いわき）

実施内容 研修「栄養指導時に必要な献立と調理(栄養介入)・嚥下食実践セミナー」について
講 師 ニュートリー株式会社営業部北部エリア 管理栄養士 中野 登美子氏
実 施 日 2019年7月13日
会 場 東部ガス株式会社 平事業所 キッチンスタジオ
対象及び参加者数 主たる対象は管理栄養士・栄養士。他に、関連職種及び県民。20名
財 源 本会会費、受講料

2 その他研修の運営事業

2-1 医療職域協議会主催の研修事業

事業要旨 医療に関わる管理栄養士・栄養士、栄養・食事関連の医療従事者などを対象として、食事療法(栄養管理)の基礎的な学習と最新情報の習得を図るための研修会を開催する。

実施内容 「嚥下調整食の過程と大量調理施設での展開例」
講 師 日本調理技術専門学校 介護食講師 田中 勇大 氏
実 施 日 2019年8月23日、2019年8月28日
会 場 学校法人 永和学園 日本調理技術専門学校
対象及び参加者数 県内医療施設に従事する管理栄養士・栄養士及び関連職種。
8月23日：24名、8月28日：23名
依 頼 元 東北電力株式会社
財 源 受講料、助成金(東北電力)

III 食生活自律支援事業

公3 県民が健全で稔り豊かな食生活を行う力を身につけることができるよう支援する事業

健康増進法は「生涯にわたる国民の栄養摂取の改善に向けた自主的な努力を促進する」(第30条の2第1項)ことを謳っており、本事業は、県民のかかる「自主的な努力」を、栄養指導・食事療法・食育の理論と技術を生かして支援し、もって、県民の健全な食生活・食事摂取を自律的に営む力を育もうとするものである。本事業は、3つの柱からなり、(1)1つ目の柱では、「個別特性対応型の食の自律支援事業」として、個々の県民の個別性・特性に合わせた栄養指導その他の専門的支援を組織的に行う。(2)2つ目の柱では、「集団特性対応型の食の自律支援事業」として、広く県民に対し、食生活の質の向上、食事を含む生活習慣の見直しと改善に役立つ知識や知恵、実用技術の普及などを行う。(3)3つ目の柱は、食・栄養と健康に関する情報コミュニケーション事業である。

これらの事業は、いずれも共通の目的を達成するための手段と位置づけられ、かつ、個々の事業相互が密接に関連しつつ相乗的に効果を発揮する関係にあることから、一体として公3の事業を構成するものである。

1 個別及び集団特性対応型の食の自律支援事業

対象者の個別特性、県民総体及び不特定多数の者の特性を踏まえ、県民の健全な食生活を自律的に営む力を育むために、管理栄養士・栄養士の高度な専門性を活かして支援を行う事業を、本会の公益目的事業として組織的に実施するものである。

1-1 栄養ケア・ステーション事業

事業要旨 市町村や医療機関（診療所）、社会福祉施設等からの栄養指導等の業務依頼に対応できる所（ステーション）である栄養ケア・ステーションで、各市町村からの要望に応じて栄養指導、及び料理教室、県民向けの講演活動等に取り組む。栄養ケア・ステーションの事業は、主として個別特性対応型の食の自律支援活動を地域密着型で掌り（もとより、集団特性対応型の食の自律支援事業も担当する）、地域住民の健康増進及び疾病予防・治療に貢献しようとするものである。それゆえ、栄養ケア・ステーションの事業は、地域住民の健康維持、増進に直接寄与するものを主たる対象とする。本会の栄養ケア・ステーションは平成20年から立ち上げた。

1-1-1 令和元年度 高齢者活躍人材確保育成事業講習

実施内容 福島会場、郡山会場 各4日間、延べ8日間

対象及び参加数 県民。22名

依頼元 公益社団法人 福島市シルバー人材センター

財源 業務手数料

1-1-3 その他

依頼件数 20件

1-2 無料職業紹介事業

事業要旨 管理栄養士・栄養士を雇用したい企業等に対し職を求めている管理栄養士・栄養士を紹介するマッチング事業で、管理栄養士・栄養士の雇用支援を行っている。

実施内容 病院・施設・養成校等から求人依頼 5件

1-3 被災者支援活動事業

事業要旨 本県は東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所の事故により被災し、県民が県内外の仮設住宅、借り上げ住宅などで生活している。これらの被災者に対しては特段の支援が必要であることから、県内各保健福祉事務所、各市町村などの要請に応じて、本会の管理栄養士・栄養士が、栄養指導、食事指導、調理指導などを行う。

対象及び件数 被災県民。個別指導386人、集団指導1,023人

受託元 福島県

財源 委託料

1-4 管理栄養士・栄養士人材確保支援事業

事業要旨 東日本大震災以降の本県における管理栄養士・栄養士の人材不足は深刻であるが、これらは本件特有の課題であるため、緊急的対策として相双・いわき地域等における管理栄養士・栄養士就職者を定着させるための支援事業を行うものである。

事業内容 (1) 相双・いわき地域における管理栄養士人材確保のための就職準備金貸付事業
(2) 県内就職定着のための支援事業
(3) 管理栄養士・栄養士人材バンク推進業務

委託元 福島県

財源 受託料

事業の詳細

(1) 相双・いわき地域における管理栄養士人材確保のための就職準備金貸付事業

事業要旨 相双・いわき地域に所在する病院・介護保険施設等で管理栄養士業務に従事する方に対して、就職準備金を貸し付ける。また、貸付制度の設計・広報・利用者募集・貸付手続き、離職防止相談等を行う。

実施内容 就職準備金の貸付を行った(管理栄養士2名)。また、広報・離職防止相談等を行った。

(2) 県内就職定着のための支援事業

事業要旨 相双・いわき地区を中心とした県内の管理栄養士・栄養士の就職者を増やすとともにマッチング不足による離職防止のための職場見学・仕事説明会を開催する。また、管理栄養士・栄養士の認知度向上のためのPR活動を行う。

実施内容 職場見学・仕事説明会を開催した。また、管理栄養士・栄養士の認知度向上のためのPR活動を行った。

(3) 管理栄養士・栄養士人材バンク推進業務

事業要旨 管理栄養士・栄養士の人材バンクの運営及び管理栄養士・栄養士の就職者の増加を図るため、県内の採用情報を把握する。

実施内容 管理栄養士・栄養士の就職者の増加を図るための採用情報の把握と求人情報の提供、管理栄養士・栄養士採用の要望活動を行った。また、地域ケア会議や低栄養予防対策に関する検討会を行った。

1-5 福島県地域包括ケアシステム構築推進事業

事業要旨 全市町村における自立支援型地域ケア会議の実施を支援するために、地域ケア会議の助言者となる専門職の人材育成を行う。

実施内容 地域ケア会議の助言者となる専門職の人材育成と関連研修会への派遣を行った。

実施数 ①地域ケア会議への助言者としての管理栄養士の出席は37市町村で226回。
②自立支援型地域ケア会議研修会12名(5月16日)
③自立支援型地域ケア会議トップセミナー5名(8月2日)
④自立支援型地域ケア会議報告会12名(10月6日)
⑤自立支援型地域ケア会議司会者アドバイザー養成研修会12名(12月17日)
⑥自立支援型地域ケア会議研修会16名(2月16日)

対 象 管理栄養士
依 頼 元 福島県
財 源 派遣先の市町村

1-6 令和元年度福島県後期高齢者医療低栄養予防健康調査事業

事業の要旨 低栄養の傾向にある者に低栄養予防のリーフレットを送付するとともに、生活習慣（食生活等）に関する健康調査を行い、生活習慣及び食生活改善の意識啓発を図り健康の保持増進と心身機能の低下を防止する。

実施内容 ①リーフレットの送付
②健康調査の実施、集計及び分析

対象及び実施数

低栄養予防高齢者（前年度健康診査受診者のうち、BMI 18.5未満者）
発送数 4,356名

委 託 元 福島県後期高齢者医療広域連合
財 源 委託料

1-6-1 後期高齢者医療低栄養予防栄養相談事業

事業要旨 低栄養の傾向にある後期高齢者で栄養相談を希望する者に対する訪問等による個別相談又は指導等を行うことにより栄養改善を図り、健康の保持増進と心身機能の低下を防止する。また、研修会や事例検討会を開催することにより、会員の低栄養予防のための訪問栄養相談の技術の向上を図る。

実施内容 ① 訪問（来所）栄養相談
② 企画会議、研修会及び事後検討会の開催

対象及び実施数

① 訪問（来所）栄養相談：低栄養予高齢者40名（62件）
② 企画会議、事前研修会及び事後検討会の開催：3回

委 託 元 福島県後期高齢者医療広域連合
財 源 委託料

1-7 地域の子育て食環境事業

事業要旨 栄養士未配置の保育所等に対する給食献立のアドバイスや、保護者等に対する栄養・食生活指導等を行うことを通して、子どもの発育・発達段階に応じた望ましい食生活の定着を図るとともに、市町村や保育所等の指導体制づくりを進める。

対 象 県内の保育所、幼稚園及びその保護者。
実 施 数 個別指導872人、集団指導4,587人
受 託 元 福島県
財 源 委託料

1-8 ファイブ・ア・デイ (5ADAY)

事業要旨 食育を通して福島の食文化の視点から日本の食文化を再発見し次代に継承するとともに、地産地消の大切さを実感する機会を提供する。各学校、県教育事務所など教育機関と連携し、県内の大型スーパーマーケットにて実施する。

対 象 県民（主として小学生）

委 託 元 一般社団法人ファイブ・ア・デイ協会

財 源 委託料

実施回数 48回

1-9 ウェルネスセミナー

事業要旨 本会の管理栄養士・栄養士が講師となり、県民の健康増進を目的とした食育講演を行う。

対 象 県民

委 託 元 大塚製薬株式会社

財 源 委託料

実施回数 11回

1-10 イベント会場における栄養相談（栄養指導）事業

事業要旨 県民が多く集まる機会（各種イベント会場）において栄養指導・食事指導を行い、県民の食の自律を図るものである。

実施内容

- (1) いわき市「介護フェア in いわき 2019」（2019年5月18日）
会場 いわき市総合保健福祉センター
- (2) 南相馬市「看護フェスタ」（2019年5月26日）
会場 道の駅 南相馬
- (3) いわき市「食育インフォメーション」（2019年6月25日）
会場 エブリア
- (4) 会津若松市「こころも身体も元気になるセミナー」（2019年9月1日）
会場 御蔵入交流館
- (5) 福島市「福島市健康フェスタ 2019」（2019年9月8日）
会場 AOZ
- (6) いわき市「令和元年度食生活改善普及運動」（2019年9月17日）
会場 マルトSC城東店
- (7) 郡山市「保健・福祉フェスティバル郡山 2019」（2019年9月29日）
会場 郡山市ビッグパレットふくしま
- (8) 会津若松市「会津若松市健康まつり」（2019年9月29日）
会場 会津若松市民文化センター
- (9) いわき市「食と健康のフレンドパーク」（2019年11月9日）
会場 いわき市総合保健福祉センター

(10) 喜多方市「きらり喜多方市民健康祭」(2019年11月10日)

会場 喜多方市押切川公園体育館

対 象 県民

財 源 会費

1-11 栄養ワンダー2019

事業要旨 「栄養ワンダー」は、公益社団法人 日本栄養士会の「栄養の日・栄養週間」のメイン企画のひとつである。管理栄養士・栄養士の活動先や栄養に関する地域イベントなどを支援する一環として、栄養を楽しむためのコツをまとめた「栄養ワンダーブック」の配布等をおこない、栄養への興味喚起と管理栄養士・栄養士職能の認知理解を目的に実施している。

実施内容 地域活動職域協議会はじめ多くの管理栄養士・栄養士が実施。

3 栄養情報コミュニケーション事業

県民の栄養改善や健康の保持増進に資する正しくわかりやすい食と栄養・健康に関する情報を発信して、県民と豊かなコミュニケーションを行う。

3-1 情報発信

テレビ等による栄養情報の発信

3-2 健康栄養訴求媒体の貸し出し事業

3-3 ホームページの設営及び栄養ふくしまの発行

(1) ホームページ (<http://www.fukushima-eiyoushikai.or.jp/>) の設営

ホームページを活用し、健康栄養に関する重要な情報を県民に発信した。

(2) 栄養ふくしま

年に1回発行し、健康栄養に関する情報、管理栄養士・栄養士の活動を県民に発信した。

IV 食環境整備事業

公4 県民の健康を育む食環境の整備を行う事業

県民の健全な食生活の形成に寄与しうる地域社会の諸資源(人と物と仕組み)を有機的に結び付け、その機能を改善・活性化させることにより、望ましい食環境の整備を図る事業である。(1) 栄養・食生活の改善を支援する保健、医療、福祉及び教育等の分野の各職種や有識者、自治体等の連携・協働関係の構築、(2) 地域社会における栄養・食生活の改善活動の担い手の顕彰、(3) 適正な食生活を応援する公共又は民間の諸制度の運用改善の取り組みなどの柱からなる。これは県民の健全な食生活

を支える地域社会づくりの事業でもある。

これらの事業は、いずれも共通の目的を達成するための手段と位置づけられ、かつ、個々の事業相互が密接に関連しつつ相乗的に効果を発揮する関係にあることから、一体として公4の事業を構成するものである。

1 連携・協働関係の構築事業

1-1 地域連携組織の拡充事業

事業要旨 地域住民の健全な食生活を支える食環境を整備するため、これに資する地域基盤の各種委員会や協議会に参画し、その連携と活動の強化に寄与し、もって公衆衛生の向上に寄与しようとするものである。

対 象 県民

財 源 会費

(地域連携組織) 食の安全・安心福島推進連絡会議、健康ふくしま21推進協議会、日本公衆衛生協会福島県支部、福島県介護予防市町村支援委員会、福島県医師会、福島県看護協会、福島県歯科医師会、福島県歯科保健対策協議会、福島県病院給食連合研究大会、福島県社会福祉協議会、福島NSTフォーラム、福島公衆衛生協会、郡山公衆衛生協会 福島県女性団体連絡協議会、チャレンジふくしま県民運動推進協議会

2 顕彰事業

事業要旨 栄養改善のために顕著な功績のある者を顕彰し、その功績を世間に知らしめることは、その者を励ますのはもとより、広く県民に栄養改善運動を普及・奨励することとなる。

対 象 県民である管理栄養士・栄養士であって、栄養改善のために顕著な功績のある者。

財 源 会費

3 県民の健全な食生活を支援する制度の整備

3-1 県民の健全な食生活を支援する制度の整備事業

事業要旨 県民の健全な食生活を支援する制度の整備をとおして県民の健全な食生活を支援するものである。

3-2 地域拠点となる栄養ケア・ステーションの整備事業

事業要旨 地域の特性を活かして県民の健康づくりを支援する地域拠点を整備する事業である。

実施内容 県民の「健康寿命の延伸」と「健康格差の縮小」を目指した「すこやか、いきいき、新生ふくしま」の創造は県民の願いである。これを実現するには、県内全地域に、それぞれの地域特性を活かして県民の健康づくりを日常的に支援する地域拠点を設ける必要がある。こうした地域拠点として、地域基盤の栄養ケア・ステーションの設置・整備を図った。

〔Ⅲ〕 本会の運営にかかる取り組み

1 組織拡充と財政基盤の強化に向けた取り組み

公益目的事業を旺盛に展開し、会員・非会員の事業参加を促進する中で、本会の必要性を実感してもらい、既存会員の活性化と新規会員の獲得を図る取り組みを実施した。会員の拡充及び賛助会員の確保による収入の増加と経費の節減により、本会の財政基盤の強化に努めた。

以 上